

# 地域医療連携室たより

No.11

信頼と融和で創るよい医療

安全・安心・信頼される公正な医療の実践

発行日  
2008年10月17日

医療法人社団松柏会  
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより  
第11号

## 在宅まで一貫した医療を提供 骨折予防のとりくみも



### 整形外科医

すずきみつのり 医師  
鈴木 光典 医師

- ・山形県山形市生まれ
- ・整形外科部長



### 整形外科医は骨大工？

軽快なバックグラウンドミュージックのなか、手際よく手術がすすめられていきます。ここは整形外科手術室。スクリュー、ワイヤー、ドリル、のみ、ハンマー、ねじ。まるで大工さんのよう。整形外科医が「骨大工」ともいわれる所以だと。今日は大腿骨頸部骨折の手術。リハビリの学生も見学。

医師になって約20年。山形県内で3年の研修、北海道の病院で3年、福岡の大学病院で半年の研修を終えて、当院に就任。最近では市内、近隣の町からの紹介も増え、充実の時期を迎える鈴木医師。忙しい診療の合間を縫って、日々の診療に対する今の気持ちをお聞きしました。

## 日々の診療で気をつけていること

## 標準的で妥当な医療を

診療に関しては、標準的で妥当な医療をすること、何か話しをする時は根拠をもっていえるように、患者さんへの説明をわかりやすい言葉で言えるように心がけている。専門用語で教えて欲しいという人もいます。説明を工夫する。

医学的なこと以外では「接遇」で気をつけていることがある。孔子の「恕（じょ）」という言葉がある。「己の欲せざる所人に施すこと勿れ」つまり、思いやりという事。自分がこんな対応されたいやだなということとはしないように心がけている。ただ、自分の気持ちが抑えられなくいやな人を演じてしまうと自己嫌悪に陥ってしまう。

## 大腿骨頸部骨折手術について

整形の手術は前の段階も大事。ガンマネイル法という手術の場合、手術室に入り、実際にメスをいれるまで約1時間10分。時間がかかってもしっかりみて準備しなくてはならない。手術そのものは40分ほどで終わることが多い。特に骨折の手術は器械の選択も重要なので、手術前にX線写真をみてどういう器械を使って固定するかということも神経を使う。

骨折の手術が多く、いわゆる待機手術という前々から予定しての手術は少ない。中でも大腿骨頸部骨折が多い。高齢の方は合併症があって当たり前。よほど状態が悪くなければ手術をして、どんどん動いていくということが基本。どうしても手術がいやだという人にはしない。頸部骨折の方でいわゆる外側型骨折は2～3ヶ月寝ていれば骨はつくと言われている。ただ、その間、寝ているということで全身の状態が悪くなるということが心配されるので、手術をしたほうがよいと言われている。ただ、内側型骨折は骨はくっつきにくい。比較的、痛みは軽くて済むことが多い。手術をしないと歩くのは難しいが、寝たり、起きたりして合併症を防ぐという方法もある。



医学生さんと（外来見学）

## 高齢な方を受け入れて

高度な医療をしている医療機関はたくさんある。むしろ、高齢な方をうけいれるということはなかなか難しい時代になっている。骨折の治療は順調でもその後の生活をどうしていくのか。退院にこぎつけるのが困難なケースもある。当院はスタッフが一生懸命で、在宅サービスまで含めて一貫してかかわっていけることが長所と思う。

## これからの当院の整形外科医療の展望

## 骨折予防にもとりくみたい

今年の春から山形大学医学部附属病院から、週1回非常勤医師がきてくれるようになり、喜んでいる。より充実した整形外科医療が提供できるようになった。今までも診断・治療に迷う時など大学に写真、資料をもって相談しにいていたが、院内でも複数の目で診るようになって、よりの確な診断ができ、より高度な医療ができるかなと考えている。

今までは骨折したのを直すことで精一杯だった。今後、どうやったら骨折しないですむのか、どうしたら予防できるのかということに取り組みたいと思う。体操とか、転んだ方の分析とか。

## ストレス解消法は？

ストレスという心配なことは山ほどあって、なくなるということはないんだろうなと思う。「何もしないこと」ということが「くまのプーさん」のなかででてくる。これにかぎる。

お笑い番組をみる。プールに行く。カラオケでXジャパンをオリジナルキーで歌う。何かおもしろいことをしてやろうと考える。一番下の子供が年長さん、家に帰ると子守り。これが一番ストレス解消かも。

インタビューに髪をかきあげながら一生懸命応えていただきました。繊細な鈴木医師に何と強引な聞き方をしていたことかと。

山形大学医学部からの支援ということが話題にでました。当院の整形外科医療に明るい希望を感じたひとときでした。





# 至誠堂ケアプランセンター みらい

(山形市桜町4-10 TEL023-615-7216)

当法人松柏会は在宅事業にも力を入れ、サービスの充実に力をいれています。



浦山 介護支援専門員

## 指定居宅介護支援事業所とは

指定居宅介護支援事業所は、介護が必要になり、ご自宅で生活される方に対して、ホームヘルパーや訪問看護、デイケアなどのサービスやその他、必要な制度等を組み合わせた居宅サービス計画を作成するところです。介護支援専門員(ケアマネジャー)が配属され、ご自宅にお伺いしながら相談を受け付けています。

秋の光がさわやかな9月の午前11時。山形市内のお宅に、当施設管理者兼主任介護支援専門員の浦山が訪問しました。昨年9月から、在宅介護が始まったお宅です。

「先月は熱がちょっとでましたが、体の調子はいかがですか。」利用者さんに声がけします。次に実の娘さんである介護者と来月のサービスの予定の確認を行います。ショートステイを月2週間ほど利用。来年3月までの予定の確認などから話が始まりました。

## はじめは、緊張の連続だった介護の日々

寝たきりの家族の介護。介護者は、最初、緊張の連続でした。胃ろうを造っているので、1日3回の濃厚流動食の準備。体調の管理。熱ができれば、痰からの熱か、おしっこからの熱か。おしっこの色や不純物に気を配ります。また、胃ろうチューブからの滲出液などの手入れ。訪問看護、訪問入浴の方などに細かなアドバイスを受け、やっと自宅での介護にも慣れてきたといいます。

## 介護者は孤独になりがち 「今のままで充分ですよ。」

ケアマネジャーは、介護者の体調にも気かけ、不安についても応えていきます。

介護者は、「一日の流れがこれでいいのだろうか。もっと声がけをしなきゃならないのではないか。」精神的にも疲れてしまう時があります。そんな時、ケアマネは大きな味方です。「あまり、いっぱい、いっぱいにならないで。車のハンドルと同じで遊びの部分があるといいですよ。今のままで充分ですよ。」と、励ましの言葉。

現在、「みらい」でお伺いしている方々の内、要介護3から5の方が70パーセントを超えています。管理者は山形県主任介護支援専門員研修を修了し、事業所として、特定事業所加算を山形県で2番目に取得しています。医療重度の方、ターミナルステージの方、重介護が必要な方、経済的な課題を抱えている方、その他困難な課題を抱えている方に対して、主治医や地域包括支援センター等の方と協力しながら積極的に関わらせて頂いています。

## その人、その家族にあった介護、生活支援を

浦山介護支援専門員が気をつけていることは、その人、その家にあった介護があるのではないかと、相手の生活から本当に必要とされているものが調整されないと介護、生活の支援にならないのではということ、自分の価値観を押し付けていないかということ、を必ず心のなかで繰り返すとのこと。

「何かあったら、いつでも連絡ください。」と、次の利用者さんに車を走らせます。



ご家族と予定確認



## 医療ソーシャルワーカーリレー連載①

地域医療連携室 中田 雅也

病院におけるMSWの業務は一言で言えば「医療福祉相談」です。患者さんやご家族との面接を通じて今の、今後の生活を支援していくことです。福祉の制度

を用いたり、家族への介入があったり「人と環境」に働きかける視点に独自性があります。具体的には「医療費の支払いに困っている」、「介護が必要になったがどうしたら良いか」といった困り事として相談開始になることが多いです。

### Aさんの姿を見かけなくなる

今回は入院時に行った療養及び退院支援の事例を紹介します。Aさんは76歳の男性で一人暮らし。Aさんの外出する姿が見られなくなったことを心配した近所の方が自宅を訪問。動けないで臥床している所を発見。脱水、低栄養、左腸骨褥瘡のため当院へ救急入院となりました。入院時には疎遠であったAさんの妹が付き添われました。補液などの治療が効を奏し体調も良くなりました。

### 経済的な困窮と今後の生活の見通し、カンファレンスを実施

しかし、ここからAさんが経済的に困窮していること今後の生活をどうしたら良いかという二つの課題が浮上。地域の福祉事務所が関わっていることが判明。Aさんを中心にMSW、妹、福祉事務

所担当者、病棟看護師、医師とでカンファレンスを実施。経済的困窮について、一定の貯蓄と月数万円の年金があることから生活保護の適用は難しかったのですが、医療費を軽減できる「標準負担限度額認定証」が取得できることがわかり早速申請する。不足分は妹さんが援助。今後の生活については、家屋が崩れそうな状態、且つAさん自身に軽度認知症により生活管理能力に乏しく自宅生活への復帰は難しいという結論に至りました。

### 「養護老人ホーム」に入所が決まる

ご自身も入所を希望し、福祉事務所担当者の主導で「養護老人ホーム」への入所を進めることと

なりました。幸い環境上及び経済的理由で生活が困難という入所要件にも当てはまり比較的早期に入所することができました。一人暮らしであっても支援者がいることで解決が促進されたという事例でした。



やまがた健康友の会 月山登山

## 我がが街 桜町・木の実町商店街 ③



### 芋子煮そば処 佐藤屋 研究熱心なそば屋さん

山形市桜町5-6 TEL023-622-2321

#### ◇佐藤茂さんハルエさんに聞く

美術館帰りで見られる人が、そばを食べ、お昼をのんびりと過ごしています。知る人ぞ知るそば屋さん、「佐藤屋」。

今や様々なマスコミで紹介されている名物「芋子煮そば」。県内外からめずらしさを聞きつけてお客さんがやってきます。自店でうったそばと山形の芋煮の絶妙なマッチ。やわらかい牛肉と里芋に、舞茸が香りをそえます。

明治36年創業。茂さんは3代目です。県立中央病院の移転の話が出たとき、生き残りをかけ、考案しました。遊学館に通い勉強し自ら特許庁に申請し、商標登録を受けました。実は、蕎麦屋さんですが、中華そばの東北の発祥の店でもあり、「昔ながらの中華そば」は隠れた人気です。麺にも、汁にも、できるだけ添加物をなくしています。これはいうに易く、実際は難しい。試行錯誤の繰り返し。中華そばのスープのしょう油は創業以来、つぎたし、つぎたした深みのある年代ものです。

みなさん、どうぞごひいきに。



### 編集後記

おたよりの編集に携わり、インタビュー、訪問に同行したりすると皆さん、熱い思いをもち、あるいは、胸に秘め、ご自分の仕事をしていることを実感します。さて、私は何℃くらいかなと考えます。(K)

### 至誠堂総合病院

地域医療連携室

山形市桜町7-44

023-622-7551

<http://www.shiseido-hp.jp>

[renkeisitu@shiseido-hp.jp](mailto:renkeisitu@shiseido-hp.jp)

発行責任者 至誠堂総合病院副院長

伊藤 英三

編集 地域医療連携室